

けいあいⅡ

第 7 号

平成21年7月21日
甲斐市立 敷島 中学校
発行責任者 長田 和人

まもなく、長かった一学期も終わり、夏休みが始まります。夏休みは、7月22日(水)から8月24日(月)までという長い期間ですので、だらけてしまうと、取り戻すのに日数がかかります。各学年の生徒の実態に応じて有意義で、一生に一度しかない「夏休み」にして下さい。「この時こんなことをした」「こんな経験をした」という思い出づくりをして欲しいと思います。また、くれぐれも、『怪我』『事故』『問題行動』等のないように、お家庭でのご指導をよろしくお願いいたします。



しかる材料でなく、励ます材料として
通信表は、このようにみてください

7月21日(火)の終業式には、今学期の学習の成果をまとめた通信表をお渡しいたします。「通信表」は、学校での学習や活動の様子を、保護者の皆様にお知らせするとともに、生徒たちが更に進んで努力し、向上することを目的に作られていますので、ご家庭でもどうかそのように役立てていただきたいと思います。

(1) 評価は、成績だけではありません。

評価は、成績だけでなく、学習態度・作品・実技・提出物・宿題・忘れ物など教科の特色と共に、様々な観点からつけられます。とりわけ、学習態度は、これからの学力向上に深くつながるものです。授業中、悪ふざけやおしゃべりをしていないか、進んで発表することができるか、宿題などの提出状況はどうか、などにも関心を持っていただきたいと思います。

(2) 特別活動の記録・生活の様子にも注意して下さい。

通信表という、とかく教科の評価だけを重視する傾向がみられますが、特別活動や生活の様子などの所見欄も是非大事に見ていただきたいと思います。生徒会での活動の様子、学級の係、生活の様子などは、社会性や自主性を育てることに大きなかわりがあります。優れた社会性、自主性は、学力の向上と深くつながっているのです。

(3) 他と比較するのではなく、本人がどれだけ成長したかを見守ってやって下さい。

兄弟やよその子と比較して、「〇〇さんを見習いなさい」などと言ってしまうことがあります。この言葉は生徒の心を傷つけることが多く、励ましにならないことが少なくありません。劣等感をあおるのではなく、本人の「まえ」と比べて、その上下の原因を考えてみるようにすることが大事です。

(4) しかる材料でなく、励ます資料にして下さい。

生徒一人ひとり、それぞれの能力・特性に違いがあります。教科の好き嫌いもはっきりしています。どの教科も良くあって欲しい訳ですが、比較的良い教科を手がかりに、励まし、意欲づけることを考えてみてください。「やればできる」という自信が、不得意教科の克服の力になります。

(5) 通信表の終わりのページに「家庭から一言」の欄があります。ここは家庭と担任とを繋ぐコミュニケーションの欄です。一言で結構ですから是非感想をお書き下さい。

【ちょっと一言】

子どもが大人になるために親は「手を出さない」、だけど「心はそらさない」。この難しさは、保護者の皆様は経験なさったと思います。代わりにやってあげた方が早いし、その場は何とか取り繕えます。これではいけないと子どもに任せ、失敗したとき「ほら、やっぱり駄目だったね」とも言ってしまうがちです。子どもが少なく、手をかけてやる余裕がある分、今の子どもたちは自立・自律する機会を奪われていると言えるのかも知れません。子どもはだれも「愛されたい。認められたい」という欲求をもっています。家庭こそそれを一番満たしてくれ、疲れた心をいやす安らぎの場でもあります。しかし、つながりの深さゆえ、子どもを苦しめ、ゆがめる場ともなっているのです。子どもたちは多くの場面で挫折を味わっているはず。しかし、その体験が必ずしも失敗を乗り越えて、新しい力を獲得する契機にもなっていません。失敗を冷笑し、子どもの勇気を見ようとしない態度ではなく、励まし見守る視線が大事なのではないでしょうか。

◎2学期の始業式は、8月25日(火)です。元気に登校して来て下さいネ!

